

平成 22 年度（2010 年度）船の科学館 基盤整備事業 事業報告書

1. 学芸振興活動

(1) “宗谷”の一般公開

“宗谷”の乗船者数及び公開日数は、次のとおりであった。

- ・本年度の乗船者数 81,059名
(うち、本館には入館せず“宗谷”だけを見学した乗船者数1,721名)
- ・公開日数 308日
- ・当館の休館日に伴う未公開日数 57日

(2) “羊蹄丸”の一般公開

“羊蹄丸”の乗船者数及び公開日数は、次のとおりであった。

- ・本年度の乗船者数 62,514名
(うち、本館には入館せず“羊蹄丸”だけを見学した乗船者数1,739名)
- ・公開日数 308日
- ・当館の休館日に伴う未公開日数 57日

(3) 図書関係

図書（逐次刊行物を含む）の充実を図り、読書ルームを一般公開した。

- ・公開日数 275日

(4) 資料の受入

本年度においては、次のとおり資料の受け入れを行った。

- ① 購入・制作資料 沖縄地方における伝統的様式の木造船「サバニ」他11件
- ② 寄贈・寄託資料 船舶模型「さんふらわあ みと」他384件

(5) 資料の貸出

① 三菱重工業(株)名古屋誘導推進システム製作所

貸出資料：二式大型飛行艇火星22型エンジン 2基

期 間：平成22年4月1日～平成23年3月31日（継続）

② 警視庁東京湾岸警察署

貸出資料：船舶模型 カティールサーク 他2点

期 間：平成22年4月1日～平成23年3月31日（継続）

③ 出光美術館

貸出資料：ジャンク船模型(付属品を含む) 1点

期 間：平成22年11月13日～12月23日

(6) 写真資料の貸出

出版会社等への写真資料の貸出を行った。 44件 121点

(7) 博物館活動への参加

博物館相互の関係を密接にするため、各種博物館活動に参加するとともに類似博物館などと交流を図った。

(8) 催事等の開催

① カヌー操船体験教室

カヌーの操船体験を通して、海と船への興味と関心を喚起するとともに、浮力や復元性など、実体験の中から学んでもらう教室を開催した。

開催期間：平成22年4月～10月 14日間

開催場所：船の科学館 体験教室プール

参加者数：1,431名

② 帆船模型工作室「夢工房」

木製帆船模型同好会「ザ・ロープ」との連携事業として、模型制作作業を通して、制作方法、使用器具、工程などを広く一般の見学者に紹介した。

開催期間：平成22年4月～10月の各土・日曜日

開催場所：“羊蹄丸”3階ギャラリー

参加者数：2,807名

③ 講談「南極第一次観測隊物語」、「白瀬矗一代記」

講談師 宝井梅福氏が、初代南極観測船“宗谷”にまつわる物語や白瀬矗一代記を、臨場感溢れる講談にして来館者に伝えた。

開催期間：平成22年4月～平成23年2月 9回

開催場所：“宗谷”士官食堂等

参加者数：179名

④ 飾り毛布制作実演

元青函連絡船乗組員のボランティアの協力により、飾り毛布を制作実演する体験教室を開催した。

開催期間：平成22年4月～平成23年2月

11回

開催場所：“羊蹄丸” エントランスロビー

参加者数：331名

⑤ 君も、一日海上保安官になろう！

海上保安の日に、東京海上保安部の協力を得て小学生を対象に巡視艇“まつなみ”による東京港内の巡視体験等を実施した。

開催期間：平成22年5月23日(日)

1日

開催場所：船の科学館、“羊蹄丸”及び東京港

参加者数：63名

⑥ めざせ！！船の科学館こども館長

夏休み期間中に本館展示場のガイドを行う「船の科学館こども館長」を募集し、ダンボールの船を造って実際にプールで乗ってみるなど、楽しみながら海や船のことを勉強してもらい、「こども館長」に認定された後は、夏休み期間中に「こども館長ミュージアムツアー」を行った。

開催期間：平成22年6月～7月

4回

開催場所：船の科学館 体験教室プールなど

参加者数：10名

⑦ セーリングカヌー操船体験教室

プロセーラー西村一広氏を代表とする「Team Nishimura Project」及び東京海洋大学ヨット部OBの協力を得て、セーリングカヌーの操船体験教室を行った。

開催日：平成22年7月4日(日)、8月1日(日)、9月5日(日)、10月3日(日)

4日間

開催場所：船の科学館 体験教室プール

参加者数：249名

⑧ 海図等の展示

明治、大正、昭和期の東京湾海図を展示し、埋め立てなどによる変遷を紹介するとともに、最新の3D海底地形図なども展示した。

開催期間：平成22年7月16日(金)～25日(日)

10日間

開催場所：船の科学館 本館3階 マリタイムサルーン

参加者数：7,318名

⑨ 臨時「海の相談室」

海の月間に伴う事業として、海上保安庁海洋情報部及び(財)日本水路協会の協力により、海洋情報に対する知識の普及啓蒙を図ることを目的とした臨時「海の相談室」を開催した。

開催期間：平成22年7月24日(土)、25日(日) 2日間

開催場所：船の科学館 本館3階 マリタイムサルーン

参加者数：308名

⑩ 海洋と海洋環境の教室

海上保安庁海洋情報部の協力を得て、海図を作成する為の水深や底質を調べる体験型の教室を開催した。

開催期間：平成22年7月24日(土)、25日(日) 2日間

開催場所：航海訓練所専用棧橋

参加者数：263名

⑪ 江戸木造和船細工展示

ボランティアの中山幸雄氏が制作した江戸の町並みや港に停泊する船の様子を同一縮尺で再現した「江戸湊」のジオラマ模型を借用し展示するとともに、同氏による解説を行った。

開催期間：平成22年7月31日(土)、8月1日(日) 2日間

開催場所：船の科学館 本館3階 和船コーナー

入場者数：640名

⑫ 親子で学ぶ海と船の博士塾

小学校4年生以上の親子を対象にして、プロセラー西村一広氏による船や海に関する講演会を開催した。

開催期間：平成22年11月～平成23年2月 4回

開催場所：“羊蹄丸” アドミラルホール

参加者数：36名

⑬ 海の安全教室

海上保安庁東京海上保安部の協力を得て、海難事故防止や海上環境保全に係る啓発を行った。

開催期間：平成22年7月31日(土)、8月1日(日) 2日間

開催場所：船の科学館 本館3階 マリタイムサルーン

参加者数：1, 463名

⑭ 測量船“明洋”一般公開

海上保安業務への理解を促進するため、普段は乗船する事ができない海上保安庁の測量船を一般公開した。

開催期間：平成22年7月24日(土)、25日(日)

2日間

開催場所：航海訓練所専用棧橋

参加者数：458名

⑮ 海の男のギャラリートーク

ボランティアグループ「海洋会」に所属する元船長や元“宗谷”乗組員等が海や船の現場で培ってきた経験談を語った。

開催期間：平成22年7月～10月

16回

開催場所：船の科学館展示場、“宗谷”

参加者数：404名

⑯ ボランティアによるミュージアムツアー

本館展示を毎回ひとつのテーマに沿って分かりやすく解説した。

開催期間：随時

121日間

開催場所：船の科学館展示場

参加者数：5, 789名

⑰ 古文書解読会

青山学院大学 名誉教授 片桐一男氏他古文書解読ボランティアグループが、船の科学館所蔵の古文書資料の解読及び基本資料「和漢船用集」の校訂作業を実施した。

開催日：随時

開催場所：船の科学館A会議室

⑱ キャプテン・シップと学ぶ海のサバイバル～救命いかだで遭難体験編～

小学生を主な対象として、救命いかだに乗って、船上での安全対策を学ぶ体験教室を開催した。

開催期間：平成22年11月～平成23年2月

9回

開催場所：体験教室プール

参加者数：280名

⑭ Happy Night view in 船の科学館～東京港の夜景を楽しもう～

船の科学館のロケーションを活かし、夜間の展望塔を開放して東京港の夜景を見学するイベントを開催、終了後、参加者が願い事を書いた「願い文」を東京大神宮に奉納した。

開催期間：平成22年11月20日(土)～平成23年2月13日(日)の土・日・祝日

28日間

開催場所：船の科学館展望塔

参加者数：291名

(9) 共催・後援・協力事業

「海」「船」「環境」などをテーマとした各種事業に共催・後援・協力をを行い、海事科学知識の普及、啓発に努めた。

① 江東区立中学校カヌー部練習会

開催期間：平成22年4月～平成23年3月

15日間

開催場所：体験教室プール

主催：江東区立中学校カヌー部

参加者数：231名（延べ）

② 練習帆船“海王丸”の出航を見送ろう！

開催期間：平成22年4月7日(水)

1日

開催場所：練習帆船“海王丸”及び航海訓練所専用栈橋

主催：独立行政法人航海訓練所

参加者数：443名

③ 第63回 東京みなと祭共催「海の子どもフェスタ～東京港の海と船に親しもう～」

開催期間：平成22年5月15日(土)、16日(日)

2日間

開催場所：船の科学館、“羊蹄丸”及び周辺

参加者数：8,396名

④ 東京海洋大学第50回海王祭「ふわふわフェルトの工作教室」

開催期間：平成22年6月5日(土)、6日(日)

2日間

開催場所：東京海洋大学越中島キャンパス

主催：東京海洋大学 海王祭実行委員会

参加者数：106名

- ⑤ 東京海洋大学第50回海王祭「ミニ船の博物館」
開催期間：平成22年6月5日(土)、6日(日) 2日間
開催場所：東京海洋大学越中島キャンパス
主催：東京海洋大学 海王祭実行委員会
入場者数：150名
- ⑥ Port Visit 2010 Live
開催期間：平成22年6月27日(日) 1日
開催場所：船の科学館 シーサイドガーデン
主催：海上自衛隊、アメリカ合衆国海軍
参加者数：300名
- ⑦ 平成22年度お台場「水辺の安全教室」
開催期間：平成22年7月25日(日) 1日
開催場所：お台場海浜公園
主催：財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
参加者数：400名
- ⑧ 第47回関東地区中学生海の絵画コンクール
開催期間：平成22年8月4日(水)～12日(木) 9日間
開催場所：船の科学館 本館1階 エントランスホール
主催：社団法人関東海事広報協会、財団法人日本海事広報協会
来場者数：4,841名
- ⑨ 造船所見学会
開催期間：平成22年8月23日(月) 1日
開催場所：(株)アイ・エイチ・アイマリンユナイテッド横浜工場
主催：社団法人日本船舶海洋工学会
参加者数：25名
- ⑩ 第9回水ものフェスティバル in 船の科学館
開催期間：平成22年8月29日(日) 1日
開催場所：体験教室プール
主催：水ものフェスティバル in 船の科学館実行委員会
参加者数：63名

- ⑪ 体験型実験装置群の巡回展「光の謎を解き明かせ！」
開催期間：平成22年9月11日(土)～26日(日) 14日間
開催場所：船の科学館 本館1階 オーロラホール
主催：財団法人日本科学協会
入場者数：2,850名
- ⑫ 防災イベント「イザ！カエルキャラバン」
開催期間：平成22年10月2日(土)、3日(日) 2日間
開催場所：がすてなーに ガスの科学館
主催：東京ガス(株)
参加者数：60名
- ⑬ 親子環境教室
開催期間：平成22年10月11日(月) 1日
開催場所：体験教室プール
主催：(株)東京臨海ホールディングス
参加者数：64名
- ⑭ 第17回豊洲フェスタ
開催期間：平成22年10月23日(土) 1日
開催場所：江東区豊洲文化センター
主催：公益財団法人江東区文化コミュニティ財団
参加者数：64名
- ⑮ TSMC 1日展
開催期間：平成22年10月24日(日) 1日
開催場所：“羊蹄丸”3階ギャラリー
主催：東京ソリッドモデルクラブ
参加者数：200名
- ⑯ 商船模型同好会作品展
開催期間：平成22年11月13日(土)、14日(日) 2日間
開催場所：船の科学館 本館1階 オーロラホール
主催：商船模型同好会
入場者数：460名

⑰ 第38回「我ら海の子展」特別展示会

開催期間：平成23年1月2日(日)～16日(日) 14日間

開催場所：船の科学館 本館3階 マリタイムサルーン

主催：社団法人日本海洋少年団連盟

入場者数：5,497名

⑱ 練習帆船“日本丸”の出航を見送ろう！

開催期間：平成23年1月12日(水) 1日

開催場所：練習帆船“日本丸”及び航海訓練所専用栈橋

主催：独立行政法人航海訓練所

参加者数：235名

⑲ 沖ノ鳥島フォーラム2011

開催期間：平成23年1月22日(土) 1日

開催場所：船の科学館 本館1階 オーロラホール

主催：東京都

参加者数：200名

⑳ 特別企画展「南極の氷に挑んだ日本の船」～木造機帆船「開南丸」と歴代南極観測船～

開催期間：平成23年1月22日(土)～2月27日(日) 32日間

開催場所：船の科学館 本館3階 マリタイムサルーン

主催：白瀬南極探検隊記念館

白瀬日本南極探検隊100周年プロジェクト実行委員会

入場者数：13,348名

㉑ 艦船模型サークル「ミンダナオ会」展示会「海から空へ～航空母艦100年史～」

開催期間：平成23年2月11日(金)～13日(日) 3日間

開催場所：“羊蹄丸”アドミラルホール

主催：艦船模型サークル「ミンダナオ会」

入場者数：1,000名

2. 「100年構想プロジェクト」事業

海洋新時代に相応しい海洋博物館の構築を目指して下記の業務を行った。

なお、本構想実現のための特定資金として、平成22年度は日本財団より20億円の助成金

の交付を受けた。

(1) 新たな海洋博物館の基本計画書の策定業務

海洋新時代に相応しい海洋博物館の構築を目指して、「新たな海洋博物館の基本計画書」の策定業務を前年度に引き続き実施し、「新たな海洋博物館の基本計画書」、「資料編(建築)(展示)」として取りまとめた。

(2) 海外海洋博物館等視察調査

期 間：平成22年10月4日(月)～10月9日(土) 6日間

視察先：中華人民共和国 上海市、青島市

上海博物館、中国航海博物館、董浩雲航運博物館、中国海軍博物館、
旧ドイツ総督官邸(青島市迎賓館)、青島市博物館、青島五輪セーリング博物館、
2010年上海国際博覧会-中国国家館、テーマ館、中国船舶館、中国鉄路館

(3) 新たな海洋博物館の構築に係る調査

① 常設展示品の評価調査

新たな海洋博物館へ移行する準備として、当館の屋内外に展示されている資料のうち、特に大型で重量のある展示資料についての基礎調査を実施した。

期 間：平成22年7月～8月

調査対象：屋外展示物11点、地下展示物3点、1階展示物28点、2階展示物23点
3階展示物7点、6階展示物8点 計80点

② 総合特区制度に関する調査

平成22年6月に閣議決定された「新成長戦略」の中の「21世紀の日本の復活に向けた21の国家プロジェクト」に謳われている「総合特区制度」において、当館がどのように関わられるかという課題の下で調査し、報告書(「新たな海洋博物館の構築のために～地域が提案する総合特区制度への参加～」)として取りまとめた。

期 間：平成22年11月～平成23年3月

3. 募金活動

昭和54年5月より、船の科学館前面水域にて一般公開中の初代南極観測船“宗谷”の老朽化に伴い、保存募金活動を平成15年3月から開始し、本年度は1,049,802円、平成23年3月末までの8年間の累計で10,717,649円の寄付金が集まり、内4,200,000円を平成17年度の“宗谷”保存整備事業に充当した。平成23年3月末の残額は6,517,649円となった。

4. 来館者の誘致活動

来館者の誘致活動については、大手新聞社への前売券の販売、近隣博物館やアミューズメント施設・マスメディア・公共交通機関との連携により割引入館券を配布するとともに都内の博物館・美術館共通入場券販売企画「ぐるっとパス 2010」への参加等を行い、入館者の増大に努めた。なお、「ぐるっとパス 2010」共通入場券利用の見学者は 3,834 名であった。

さらに、官公庁・海事関連団体による展示会や会議・セミナーの開催を誘致することにより既存ホールの積極的な活用と船の科学館の知名度の向上に努めた。

5. 広報活動

各種広報活動を次のとおり実施した。

(1) 行事の実施

前出の学芸振興活動における「海」「船」「環境」などをテーマとした各種事業への共催・後援・協力を行った。

(2) 標識掲出、交通広告の実施

港区及び江東区に道路看板を 3 基継続掲出したほか、新交通ゆりかもめ「船の科学館駅」に案内看板を 1 基継続掲出した。

(3) 各種広報活動の実施

- ① 有効な広報手段である船の科学館ホームページの運営・更新を行うとともに、「月刊教育旅行」等の教育誌及び「東京シーサイドストーリー」、「エンジョイマツプ 沿線ガイド」、「読売新聞」等の宣伝効果が期待できる媒体を利用し、船の科学館の案内広告を掲載した。
- ② 船の科学館各種行事案内リリースをマスコミやインターネット情報サイト等に発信した。
- ③ テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等に取材要請をするとともに、撮影、取材、番組制作に協力し、船の科学館の知名度の向上に努めた。

6. 諸施設の利用状況等

開館 36 年を迎えた船の科学館は、家族連れの個人客をはじめ都内、近県及び全国の小、中、高校生の校外学習、遠足並びに修学旅行のほか、一般団体、海事団体、障害者団体、高齢者団体等の受け入れを幅広く行うことにより、財団の目的である海事知識の普及啓発に努めた。

入館者については、有料入館者 146,192 人(個人 112,199 人、団体 33,993 人)、無料入館者(学生団体の教職員、招待券等)7,546 人、“宗谷”“羊蹄丸”のみ乗船した見学者 3,460 人の計

157,198 人であった。

この他に催事、会議及びセミナー参加者等の施設利用者は 95,571 人あり、合計 252,769 人の来館者があった。

なお、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震及びその後の被害状況の確認（確認の結果、被害は軽微であった）、電力供給不足による交通機関の乱れや計画停電の実施に伴い、3 月 12 日から 3 月 25 日までの間、休館した。

体験教室プールは、カヌー操船体験、キャプテン・シップと学ぶ海のサバイバル等の体験学習に活用したほか、江東区立中学校カヌー部、親子環境教室、水ものフェスティバル in 船の科学館等、共催・協力事業、教育機関、海事関係団体等にも開放し、海事思想の普及に努めた。

入館者の便益施設の運営形態については、飲食施設のレストラン「海王」は大同企業㈱、売店「マリンショップ」はノムラデベロップメント㈱との施設使用契約を締結し運営を行った。